

「第9回宮本賞(学生懸賞論文)」応募69本、受賞者決定!



(左から第7回「若者シンポジウム」、既刊「宮本賞論文集第1巻～6巻」、第7回受賞者による「若者交流会」)

【学部生の部】最優秀賞：チーム Robee^[藤村1] 吉田泰地さん等7名（日本大学商学部チーム）

「中国でドローン産業が育つのはなぜか？」

～日本ドローン産業育成への示唆

優秀賞：劉牧原さん等5名（中国人民大学日本語学科他）

「日本人大学生の対中認識とその影響要因に関する一考察」他3本

【大学院生の部】最優秀賞：南部健人さん（北京大学大学院中文系中国現代文学修了）

「老舎の対日感情の変化——「日中友好」を再考する」

優秀賞：王風さん（二松学舎大学文学研究科博士前期 国文学専攻）

「夏目漱石の漢詩について

～言語と思想の特徴、および漢文学からの影響—」他1本

日本日中関係学会（会長：宮本雄二・元中国大使）が主催し「第9回宮本賞（日中学生懸賞論文）」を募集（2020年6月から募集開始）したところ、日本ならびに中国・アメリカ等から「学部生の部」で41本、「大学院生の部」で28本、合計69本の応募がありました。

2020年12月9日（水）に宮本雄二審査委員長など審査委員が審査委員会を開催し、その後、個別の論文に対する外部有識者の所見を募るなど、厳正な審査を行った結果、12月13日に「学部生の部」の最優秀賞に、チーム Robee^[藤村2] 吉田泰地さん等7名（日本大学商学部高久保ゼミナールチーム）による「中国でドローン産業が育つのはなぜか？～日本ドローン産業育成への示唆」が選ばれました。また、優秀賞には劉牧原さん等5名（中国人民大学日本語学科他）のチームによる「日本人大学生の対中認識とその影響要因に関する一考察」他3本、特別賞3本もそれぞれ選ばれました。

「大学院生の部」の最優秀賞には、南部健人さん（北京大学大学院中文系中国現代文学修了）の「老舎の対日感情の変化——「日中友好」を再考する」が選ばれ、また、優秀賞には王風さん（二松学舎大学文学研究科博士前期 国文学専攻）「夏目漱石の漢詩について～言語と思想の特徴、および漢文学からの影響—」他1本、特別賞3本がそれぞれ選

ばれました。

応募数は第 1 回の合計 12 本から、回を重ねるごとに増え、昨年はは[藤村3]これまでで最も

多い 87 本の応募数となりましたが、今年は年初からの新型コロナウイルス感染により応募数は 69 本と減少しました。しかし、コロナ禍の影響が多岐に亘り拡大する中、応募して下さった学生の皆さんの健闘を大いに讃えたいと思います。

昨年に引き続き、論文のテーマは多様化し、また、昨今、目覚ましく発展を遂げる中国から学ぼうとの新しい視点に立脚した論文も増えております。この面で、宮本賞はまさに移り行く時代を反映しながら、日中の若者による相互理解を深め、日中のより良い関係を構築していく上で、大きな役割を果たしていると考えます。

従来であれば毎年 3 月に中国の受賞者数名を日本に招き、日本在住の受賞者と一堂に会し、東京都内にて「受賞者表彰式」および「若者シンポジウム」、「若者交流会」などの直接交流を行ってまいりました。しかし、年初からのコロナ感染拡大により、第 8 回宮本賞においては、残念ながらこれらの活動を中止せざるを得ませんでした。

第 9 回宮本賞では、感染症対策を行った上で、2021 年 3 月 25 日（木）午後 1 時から「受賞者表彰式」および「若者シンポジウム」を日本記者クラブで開催する予定であり、またオンライン方式で遠隔地の受賞者にも参加いただく予定としておりますので、ご期待ください。

来るべく 2021 年に、宮本賞は第 10 回目の節目の年を迎えます。記念すべき節目の年に相応しい論文を期待しております。尚、論文の募集は例年同様 6 月から開始いたしますので、引き続き皆さまの一層のご協力を宜しくお願いするとともに、新型コロナウイルスの早期収束により、一日も早く直接交流の機会が復活することを心から祈念致します。

第 9 回宮本賞受賞者及び受賞作品について

<学部生の部>

○最優秀賞=副賞：10 万円

▽チーム Robee [藤村4]

よしだたいち ようびんこう うちだかいと さとうあいら ばんばなのみ
吉田泰地さん、楊旻昊さん、内田海斗さん、佐藤藍里さん、坂場順美さん、

ひやま まつむろただゆき
檜山かな子さん、松室直友樹さん（7 名）（日本大学商学部高久保豊ゼミナール）

●中国でドローン産業が育つのはなぜか？～日本ドローン産業育成への示唆

近年、中国では大胆な法整備や産業支援により、ドローンの社会実装が急速に進んでいる一方、日本では社会実装が進んでいない。文献とアンケート調査により、日本では慎重な法整備が民間の意欲を抑制し、その結果として社会実装が遅れていることが判明。日本の特徴である安全性と、中国のスピード感・チャレンジ精神を共に取り入れることで、より良いドローンの生産と、日本のドローン産業の発展の可能性を提起する。

○優秀賞=副賞：3万円

▽劉牧原さん、肖蘇揚さん、何曉華さん、潘雨歲さん、陳諾さん（5名）

（中国人民大学日本語学科他）

●日本人大学生の対中認識とその影響要因に関する一考察

中国留学経験の有無の比較を中心に、アンケートを通じて日本人大学生の対中認識の実態と影響を分析。留学経験者は非経験者に比べ、対中イメージが良くなることを確認。また、その要因は主に情報源の違いによることも検証された。これを踏まえ、お互いの国家に対する認識を深め、イメージを改善する上で、留学等をはじめとする直接体験の重要性が説かれる。

○優秀賞=副賞：3万円

▽杜沁怡さん（浙江工業大学外国語学部日本語学科4年）

●日中比較による中国アニメ産業の一考察

「アニメ王国」である日本は、アニメ・マンガを通じ商業利益を得るのみならず、文化の輸出にも成功した。一方、2004年以降、中国政府は国産アニメの育成に注力し、現在アニメ生産量は世界一位となった。また、最近はいくつかの中国アニメが日本に上陸するなど、質的にも向上しつつある。国内市場が縮小する中、日本のアニメ産業にとって中国市場は魅力的であり、将来的に日中共同制作等の協業が増えることにより、両国関係改善の切り札になり得るかを探る。

○優秀賞=副賞：3万円

▽于明珠さん（上海外国語大学日本文化経済学院）（2020年6月卒業）

●改革開放後和製漢字語の中国への流布と影響

改革開放後40年間、日本から社会、経済、文化等の多方面に亘り、様々な和製漢字が中国に流布し、中国の社会、文化に影響を及ぼした。中国人の和製漢字語に対する認知・理解や、和製漢字語が中国に与えた影響等につき、主に中国の大学生に対するアンケート調査を通じて科学的に分析する。また、これらの事例を踏まえ、中国文化の対外輸出についても考察する。

○優秀賞=副賞：3万円

▽鮑瑜欣さん、白氷玉さん、李樂涵さん（中国人民大学日本語学部）

●中国メディアの日本関連新型コロナ報道にみる日本の国家イメージ

今年1月以降の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中国メディアの日本関連の新型コロナウィルス報道は、日本の国家イメージと中国人の対日認識にどのような影響を与えたのか。70日間に亘る「環球網」の関連報道からサンプルを抽出し、フレーム理論と内容分析を用い、「コロナ対策」、「コロナの影響」、「中日協力」の三つの切り口か

ら、中国における日本の国家イメージを分析する。

○特別賞=副賞：図書券（5000 円相当）

▽林悦さん（華東理工大学外国語学部日本語科）（2020 年 6 月卒業）

●日本のサブカルチャーにおける役割語の使用と翻訳

日本のサブカルチャーである漫画、アニメ、ゲームなどの作品では、多彩なキャラクターのイメージを形作る上で、「役割語」（例えば、「お嬢様言葉」、「不良言葉」等）は重要である。しかし「役割語」の機能が日本語に比べて希薄な中国語への翻訳時に、この面をどのように補っているのだろうか。ゲーム「ダンガンロンパ」を例に、中国語訳と日本語の原文を対照し、分析を行った。

○特別賞=副賞：図書券（5000 円相当）

▽飯田由樹さん（明治大学経営学部 4 年）

●自動車産業におけるビジネスモデルの一考察～中国の外資開放の意味とは

「CASE」に象徴される通り、現在、自動車産業は大きな構造転換を迎えている。また、世界最大の自動車市場である中国においても、2017 年に EV 規制の撤廃、2018 年には外資規制の撤廃など、建国以来堅持してきた従来の自動車産業政策に大きな変化が起こっている。このような状況に鑑み、中国の外資開放の意味を考察するとともに、今後の日本における自動車産業のビジネスモデルチェンジを提案する。

○特別賞=副賞：図書券（5000 円相当）

▽任依婷さん（北京外国語大学日本語学部）（2020 年 6 月卒業）

●戦時期日本の婦人雑誌にみる植民地主義

戦時中に発行された「主婦之友」の中国関連記事を対象にテキスト分析を行い、日本において婦人雑誌が果たした重要な役割を検証する。研究対象となった 3 つの記事からは、女性の特質を利用して植民地主義的発想を巧みに植え付けようとするマス・メディアの意図が浮かび上がる。

<院生の部>

○最優秀賞=副賞：10 万円

▽南部健人さん（北京大学大学院中文系中国現代文学修了）

●老舎の対日感情の変化——「日中友好」を再考する

幼少期から日中戦争を経て戦後まで老舎の対日感情を追っていくと、日本に憎悪を抱いていた老舎の認識が本質的に変化したのが実は日中戦争期であることが分かる。その要因として 3 人の日本人との出会いがあることを指摘し、そこから生じた老舎の対日感情の変化と深化を、老舎の言動を通して分析する。これをヒントに、「日中友好」という使い古された言葉の可能性を考え直す。

○優秀賞=副賞：3万円

▽^{おうふう}王風さん（二松学舎大学文学研究科博士前期 国文学専攻）

●夏目漱石の漢詩について 一言語と思想の特徴、および漢文学からの影響—

夏目漱石が残した漢詩作品は和製漢語を所々に採用し、多少の「和習」があるが、平仄韻字のルールに従って整えられ、「反復法」という修辞が活用された。「厭世」「脱出」「無我」「禅定」の心理変化の過程を経て、最晩年の境地に至ったことも跡づけられる。漢文学から多大な影響を受け、優れた「意境」と典型的「意象」を多く活用していた。さらに現実関与の深い思索によって、その漢詩は一般の美学の境界から脱出して、中国古代の優れた漢詩と並ぶ一層高い哲学的境界に入ったと考えられる。

○優秀賞=副賞：3万円

▽^{おかもと きしゅう}岡本紀笙さん（北京大学燕京学堂 修士1年）

●人道的観点に立脚した日中関係の構築へ向けて

——日中政府間の歴史認識問題を事例として——

歴史認識は依然として日中間の課題の一つである。2000年代以降両国にナショナリズムが広がり、人命尊重という人道的観点が周辺化された。南京事件での犠牲者数の多寡が政治的な意味を帯び、人命が失われたという本質的な事実は埋没した。人道的観点は中立公平を基本とする規範であり、両国の共通認識の構築に寄与する。両国は政治家と歴史家の役割を明確にし、必要な議論を続け、人道的観点に立脚した関係を構築すべきである。

○特別賞=副賞：図書券（5000円相当）

▽^{りかく}李珪さん（北海道大学国際広報メディア・観光学院博士後期3年）

●映画の公開状況から見る日中両国の相互理解上のギャップ

両国の国民が交流を通じ、相手国に対するイメージを常に変化させている。日本人は中国の反日デモの報道を見ながら、中国の観光客や留学生と接触して相手を少しずつ理解している。中国人は歴史教科書で日本に関する問題を勉強しながら、日本のポップカルチャーが大好きだ。相手国のイメージは複雑で常にギャップが生じる。イメージ形成に重要な役割を果たすメディアの一つである映画を取り上げ、相互理解上のギャップを究明する。

○特別賞=副賞：図書券（5000円相当）

▽^{ぶしゅうきつ}武鐘吉さん（ニューヨーク大ロースクール2020年5月卒）

●満鉄と近代中国の工業化 —中日関係における展望—

南満州鉄道は大規模な近代企業の前身として鞍山製鉄所と撫順炭鉱を創立した。満鉄は戦後日本の高度経済成長とつながっているだけでなく、中国の工業化とも関係し、組織構造は中国企業の中に生き続けている。最後に今後の中日関係において共通の歴

史認識、経営管理の交流、また第三国での経済協力などを行う必要性を述べる。

○特別賞=副賞：図書券（5000 円相当）

▽^{おうけい}王慧さん（北京日本学研究センター^{藤村5}修士2年）

●南原繁の大学教育論 ——中国大学の教育現状に対する啓発

南原繁は戦後日本の教育改革で「人間の育成」を中心とする理念を打ち出した。儒学、西洋哲学の影響を受けた彼の思想は中国人にも受けられやすく、現代中国の教育に存在する問題も解決できる。大学教育の目的を「立身出世」から『人間』の育成へ転換すること、そのために学問の探究と精神の純化の両立が重要となること、人々が真実と敬愛によって結合し、真理と正義を目指す大学共同体の構築を心がけなければならないことである。

○特別賞=副賞：図書券（5000 円相当）

▽^{ちようごしやく}張語鏢さん（北京外国語大学日本学研究センター文化コース修士2年）

●日本の歴史的観光地に対する中国人観光客の評価に関する考察～浅草寺を例に

日本の歴史と伝統文化を伝える観光地に中国人観光客はどのような関心を持つのか。浅草寺を例に考察する。シートリップから収集した評価に対して感情分析を行った。結論として、中国人観光客の訪れる主要な場所が雷門と仲見世で、宝蔵門や本堂や二天門などに言及した評価がほとんどないこと、観光客が主に和服体験や籤引きや買い物をするということ、そして、85%以上の中国人がポジティブな感情を持っていることが挙げられる。浅草寺をより詳しく紹介することやサービス多様化に旅行会社が取り組むことなどを提案する。

審査委員長：宮本雄二（元駐中国大使、日中関係学会会長）

<学部生の部>

大久保勲 福山大学名誉教授、日中関係学会顧問

杉本勝則 元参議院法制局法制主幹、日中関係学会理事、アジア・ユーラシア総合研究所研究員

露口洋介 帝京大学経済学部教授、日本銀行初代北京事務所長、日中関係学会評議員

林千野 双日株式会社海外業務部中国デスクリーダー、日中関係学会副会長

藤村幸義 拓殖大学名誉教授、日中関係学会監事

村山義久 時事総合研究所客員研究員、日中関係学会評議員

<院生の部>

安井三吉 神戸大学名誉教授、神戸華僑歴史博物館館長（代行）、孫文記念館名誉館長、日中関係学会理事

加藤青延 NHK 解説委員、日中関係学会副会長

国吉澄夫 元東芝中国室長、日中関係学会副会長

高山勇一 元現代文化研究所常務取締役、日中関係学会理事

村上太輝夫 朝日新聞オピニオン編集部解説面編集長、日中関係学会理事

吉田明 前清華大学外国語学部日本語教員、元朝日新聞記者、日中関係学会会員

宮本賞実行委員会：委員長＝林千野
副委員長＝国吉澄夫、村上太輝夫、川村範行、伊藤正一
委員＝内田葉子、高山勇一、三村守、方淑芬、朱杭珈、江越眞、藤村幸義
